

本申込書が審査資料となりますので、いずれの項目も簡潔にご記入ください。

共生事業助成部門(記入サンプル)

浄土宗宗祖法然上人800年大遠忌記念事業
平成23年度(第5回)「共生・地域文化大賞」
共生事業助成部門 応募申込書

法人印を押印。ない場合は、代表者印を押印。

申請日：平成 年 月 日

1. 申請団体概要 ※申請者が実行委員会形式や超宗派の寺院で構成されている場合は、事務局等連絡の窓口となる団体を記入

団体名 (仏教寺院の場合、宗派・寺院名)	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじんえこともいき			
	特定非営利活動法人 eco ともいき			
代表者	役職	理事長	氏名	(ふりがな) みやこ えこ
				都 絵子
団体所在地	〒●●●●-●●●●●● ●●市●●●町 321			
	連絡先	担当者氏名	(ふりがな) やまかわ かんた	TEL(携帯可) ●●●-353-●●●●●●
山川 環太			FAX ●●●-353-●●●●●●	
E-mail			office@---.or.jp	

架空の団体名です



2. 申請団体が市民活動団体(NPO)やボランティア団体の場合は、ご記入ください。

団体設立年月	昭和・平成 11 年 2 月	会 員 数	84 人
	*NPO法人は法人登記年月もご記入ください 昭和・平成 14 年 10 月	有給スタッフ数 (ない場合は省略可)	0 人

3. 協働するパートナーについてご記入ください。

※申請団体が市民活動団体(NPO)等の場合は、仏教寺院がパートナーです。仏教寺院がパートナーシップ型の事業を申請する場合は、市民活動団体(NPO)等がパートナーになります。パートナーが複数団体の場合は代表の団体で結構です。

協働団体名 (仏教寺院の場合、宗派・寺院名)	(ふりがな) じょうどしゅうおおさかであら			
	浄土宗大阪寺			
代表者	役職	住職	氏名	(ふりがな) みかげ ひでこ
				御影 秀子
団体所在地	〒●●●●-●●●●●● ●●市●●●町 456			
	連絡先	担当者氏名	(ふりがな) ちおん みちなり	TEL(携帯可) ●●●-252-●●●●●●
知恩 道成			FAX ●●●-252-●●●●●●	
E-mail			Jiin@---.or.jp	
パートナーの組織概要	(パートナーが市民活動団体(NPO)等の場合のみ、ご記入ください)			

架空の団体名です

※申請団体が任意団体の場合は、以下の書類を添付ください(他薦の場合も類する書類を入手可能な範囲で添付)

- ① 規約、会則などNPO、団体の組織運営が分かるもの
- ② 役員名簿またはそれに準ずるもの
- ③ 直近の事業報告書及び決算書類(設立初年度の団体は事業計画書と予算書)

ただし、公益活動ポータルサイトきょうえんで「社会的認証システム-ステップ2」以上を取得されている場合は①~③の書類添付の必要はありません。その他の情報公開システムにおいて「ステップ2」と同レベルの情報公開を行っている団体も同様です。詳細はお問合わせください。

※申請団体がNPO法人の場合は、登記事項証明書(「現在事項全部証明書」の写しで可)を添付ください

4. 企画概要 ※本助成金応募の対象となる活動や事業の企画概要について記入

<p>企画(活動・事業)名</p>	<p>Eco Temple プロジェクト</p>
<p>企画の趣旨・目的</p>	<p><記入例> この事業は、〇〇宗〇〇派大阪寺が所有する敷地や周辺の自然環境を地域の市民に開放し、大阪寺僧侶と協働してお寺にある資源の有効利用を協議・推進することで、地域の自然環境や生態系保全、子どもたちの「学びの場面」の創造へとつなげていくことを目的として実施します。お寺がもつ多様な社会資源を地域に開放することで、お寺が親しみのある活動拠点になるきっかけづくりとなることを目指しています。</p>
<p><企画の概要></p>	
<p><記入例> この地域において貴重な緑地空間である寺院の境内および敷地内周辺の自然を活用して、自然観察会、植生調査を実施するとともに、子ども達が身近な自然に「ふれる・学べる」機会を、大阪寺とNPO 法人 eco ともいきとの協働でつくります。 また、その活動の結果を、子ども達がみずからまとめ・報告する過程を経て、地域への子どもの発信力を高めます。調査結果は、「大阪寺の植物・秋冬編」としてパンフレットにまとめ、地域の方々に配布します。 この取り組みをきっかけに、将来的には寺院を拠点とした地域の植生や生物多様性等を保全する活動へ継続的に発展することを願っています。</p>	
<p><企画の詳細(活動実施日(期間)、対象地域、対象者、実施方法等)></p>	
<p><記入例> NPO 法人 eco ともいきの会員および、大阪寺の檀家、および地域の小学校～高校程度の子どもたちを中心とした地域住民を対象とします。 夏休み期間を利用して、「お寺の自然観察会」を実施します。その際に、秋以降に実施予定の植生調査を案内し、子どもを中心に調査員希望者を募ります。秋以降に随時、植生調査を実施しながら、「大阪寺の植物・秋冬編」として作成する。観察会・調査会には、植物の専門家を講師として招くとともに、eco ともいきのメンバーが、スタッフとして、子ども達の調査活動をサポートします。 パンフレットの作成に当たっては、子ども達が企画・作成スタッフとして中心的に関われるようサポートし、3月中旬には、パンフレットのお披露目会(調査報告会)を行います。</p>	
<p><企画の実施スケジュール></p>	
<p><記入例> 8月 子ども達の夏休みを利用した自然観察会を数回実施する。 9月～1月 第1・3土曜日 植生調査 第2・4土曜日 パンフレットの企画・作成 3月中旬 調査報告会・パンフレットのお披露目会(大阪寺にて)</p>	
<p><協働パートナーの役割>項目3に記入の「協働するパートナー」が企画実施上、果たされる役割を具体的にご記入ください。 *仏教寺院単独で実施される事業の申請の場合は、この部分の記入は必要ありません。</p>	
<p><記入例> 本事業は、当法人が大阪寺に交渉を行い、深い理解をいただいて企画・実施に至ったものです。パートナーである大阪寺および同寺の僧侶は、敷地の提供をするだけではなく、本企画の実行委員会のメンバーとしても積極的に参画いただき、檀家ネットワークを有効に活用する際の要として活動いただいています。 また、同プログラムの実施については、お寺の本来的な活動ではない公益性のある事業として、教育委員会からの後援もいただいています。</p>	
<p><期待される効果></p>	
<p><記入例> ・ 地域の子ども達が、自らの地域を知る機会となり、地域への愛着をもつきっかけとなる。 ・ eco ともいきの会員と大阪寺の檀家がともに取り組むことにより、新しい人的交流を得られる。 ・ 地域の環境保全の拠点として寺院を位置づけることができる。</p>	

本申込書が審査資料となりますので、いずれの項目も簡潔にご記入ください。 共生事業助成部門(記入サンプル)

5. 希望助成金額

希望助成金額 ※1～50万円 までの必要額	22万円	助成金の希望用途 (具体的に) ※収支計画は以下に ご記入ください	講師謝金・消耗品費・印刷費等に充当
-----------------------------	------	--	-------------------

6. 収支計画

収入の部

項目	金額 (円)	内訳・明細 (単価・人数/個数)
寄付 (地域住民より)	50,000	
助成金	220,000	共生・地域文化大賞
合 計	270,000	

支出の部

項目	金額 (円)	内訳・明細 (単価・人数/個数)
観察会講師謝礼	15,000	5000円×3回×1人
調査会講師謝礼	50,000	5000円×10回×1人
プログラム運営スタッフ 謝礼	100,000	1000円×20回×5人
スタッフ・参加者保険	18,000	300円×60人
消耗品費	30,000	文具機材等、プログラム運営に必要な物品購入
ちらし印刷費	10,000	ちらし印刷費 (●●枚予定)
パンフレット印刷費	32,000	パンフレット印刷費 (●●枚予定)
通信運搬費	15,000	チラシ・パンフレット等発送
合 計	270,000	

<収支計画について補足説明があればご記入ください>

7. 団体のプロフィール資料(団体の概要がわかるものや代表的な新聞記事、活動写真等を加工して貼付け)リーフレットやチラシ等の原本は1部添付ください。

団体のビジョン
(きょうとNPOセンターのリーフレットから一部参考として抜粋)

市民社会構築のための4つのアクション

NPOの基盤強化

- 市民金融、市民ファンド
- ボランティアコーディネーション
- マネジメントコンサルテーション
- 情報発信・提供
- 講座・セミナー・ワークショップ

市民社会の創造

- NPOフォーラムの開催
- 市民立法フォーラムの開催
- 課題別政策会議の実施
- 地方議員との勉強会
- コミュニティFMの支援
- コミュニティペーパーの発行

教育と調査・研究

- 大学
- …人材育成プログラムの開発・実践
- …包括協定による事業展開
- …研究組織のプラットフォーム提供
- 独自調査研究の実施
- 研究紀要の発行
- 講師派遣

交流・連携

- 企業
- …CSR推進室の設置
- …災害時における包括協定の締結
- マスメディア
- …地域情報発信
- …市民メディアセンター開設
- 行政
- …政策提言
- …各種委員会への人材派遣
- …京都市市民活動総合センターの運営

※画像等はいずれも例です。

浄土宗新聞 2007年(平成19年10月1日)

浄土宗新聞 第488号 (10)

浄土宗ニュース

共生・地域文化大賞最終選考 神戸定住外国人 支援センターが大賞

優秀賞・共生賞の6団体も表彰



坪井現下より表彰される金理事長

法然上人八百周年大遠忌記念事業の一つとして進めているココロ・エコ事業の「共生(ともいき)・地域文化大賞」の最終選考会(堀田力委員長・さわやか福祉財団理事長・法然上人をたたえる委員会)が九月十日、京都宗務庁で開かれ、第一回の大賞にNPO法人神戸定住外国人支援センター(金宣吉理事長)が選ばれた。これは法然上人の共生思想を現代に具現しているNPO法人の活動を支援・奨励しようとする今年度から始められたもの。

当日は、応募総数百十七団体から第一次選考会で選ばれた「優秀賞」九団体、「共生賞」四団体の計十三団体の候補が来庁、それぞれ団体の活動を映像などを使いながら解説した。その結果、大賞には神戸市長田区で在日外国人のための生活相談、日本語学習支援、高齢者のためのデイサービスなど、幅広い活動が評価された神戸定住外国人支援センターが採択された。

また、優秀賞には北海道むかわ町の田んぼdeコミュニティカル委員会、東京都新宿区の難民支援協会、大阪府港区の日本クリニクラウン協会の三団体、共生賞には北海道十観町のほん・ぼん・ほん、ほんぶきん、栃木県宇都宮市のとちぎボランティアネットワーク、東京都千代田区のアネットワーク、東京都市圏のファミリーハウスが選ばれた。このうち共生賞は寺院と関係して行う活動を奨励するもの。

発表と授賞式は総本山知恩院御影堂で行われ、優秀賞と共生賞は選考委員から賞状と活動奨励金五十万円、大賞は浄土門主坪井俊映現下から賞状と活動奨励金二百万円が手渡された。

大賞を受賞した金理事長は、「地域で地道に活動していたことが評価されてとてもうれしい。また、ここに来て皆さんの活動を知って、『ともいき』の意味が分かったような気がします」と喜びを語っていた。

※提出いただいた書類や資料等は返却しません。
 ※運営事務局あてに、必ず特定記録郵便でご郵送ください。募集終了日は平成24年1月25日(水)必着です。